

## 1 目的

「福山駅前再生」や「ウォーカブルなまちづくり」，「福山駅前広場の検討」の目的の周知を図りながら，駅前広場や駅周辺の公共空間のあり方を市民や事業者の方々と一緒に学び考えるために開催しました。

## 2 内容

### （1）ガイダンス

「なぜ，福山駅前の再生に取り組んでいるのか」，「なぜ，ウォーカブルなまちに変えていくのか？」，「なぜ，駅前広場の検討を始めるのか？」について，市から説明を行いました。

### （2）レクチャー

全国で公共空間のプレイスメイキングなどに取り組まれている泉英明さんにより，単なるハードとしての「場」づくりではなく，人々にとって自由で居心地の良い場所をつくることによって，まちの価値を上げていく取組が紹介されました。

#### ・ゲストスピーカー

泉 英明さん（都市プランナー／有限会社ハートビートプラン代表）

### （3）パネルディスカッション

会場やオンラインで参加された方々からのご質問やご意見にお答えしながら，福山駅前広場や駅周辺の公共空間のあり方について，意見交換を行いました。

#### ・ファシリテーター

清水 義次さん（福山駅前デザイン会議座長）

#### ・パネリスト

西村 浩さん（福山駅前再生アドバイザー），泉 英明さん



### 3 パネルディスカッションでの意見交換の内容（全44件の内、一部抜粋）

#### ●バスやタクシー乗場はどうなりますか？

→これから検討していくことになるが、色々な交通が結節して、今よりも便利になることが基本になる。駅前再生の取組は、交通結節だけが目的でなく、福山の人々の暮らしを良くすることをめざしている。商業振興や子育てが楽になるなどの様々な地域課題の解決をめざしながら、交通の乗換えを考えていかないといけない。

#### ●ウォークラブルな駅前にするためには、車社会からの脱却も必要と思うが、なかなか車が手放せないのですが。

→車社会なので、当然、車は手放せない。一定のエリアをウォークラブルなエリアにしていこうという話なので、車で来れないわけではない。車でアクセスしやすい駐車場に停めて、車を降りた後、安全に歩ける空間を作っていくといけない。その際、点在している小さな駐車場の集約や自転車などの交通結節を増やしていくことも大事になる。

#### ●ウォークラブルな駅前になると人々の交流以外に、どのようなメリットがありますか？

→海外の事例では歩行者の増加や売り上げの増加、犯罪の減少などの効果があると言われている。また、ウォークラブルな場所ができると子どもやお母さんが訪れるようになる。小さな子どもから高齢者までのあらゆる世代で構成されることがまちの未来につながる。

#### ●福山駅周辺にそこまでのにぎわいが生まれていると思えないが、民間投資と公共投資のどちらが先ですか？

→投資は簡単には起こらない。まずは、市民が公共空間をどう使いこなすかというアイデアを出し、実際に日常的に使い出すと、投資が生まれてくる。まずは、投資の有無に関係なく、公共空間を使う習慣をつくるのが大事。

#### ●福山駅周辺は駅の北側も含めての考えですか？

→もともと福山城があった場所に鉄道を通してあるので、当然、南北を一緒に考えた方がいい。分断されている印象があるだろうが、空間的にはつながっている。空間を使っていくことで南北がつながってくるだろう。

#### ●駅南口に人々が集える場所を希望している市民が多いですが、今の駅前広場を公園のような場所にするという構想は現実的なもの？

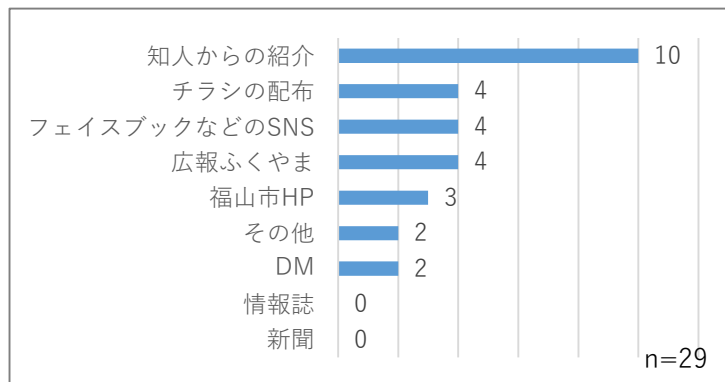
→完全にビジョンのような場所になるかは別として、公園のような駅前広場を作ることは可能だと思う。ただし、交通結節は阻害せず、両立させることが大事になる。人が集える広場を希望している人が多いのであれば可能だろう。

#### ●福山駅前には民間企業のマンション建設が先行して、福山市としての都市空間の大きなビジョンが見えてこない。

→現在、福山駅周辺ではビルの建て替えや古い建物のリノベーションなどが起きている。こうした民間投資が起きているのは、駅周辺のこれまでの取組から魅力を感じ、今後良くなるだろうという予感を感じているからだろう。ビジョンが見える、見えないというよりも、ビジョンを見通す人たちが出てくるということだ。ビジョンは行政が示すよりも、民間がいかに感じ取るかにポイントがある。こうした民間の動きを束ねていくことで福山の新しい魅力につながっていくだろう。

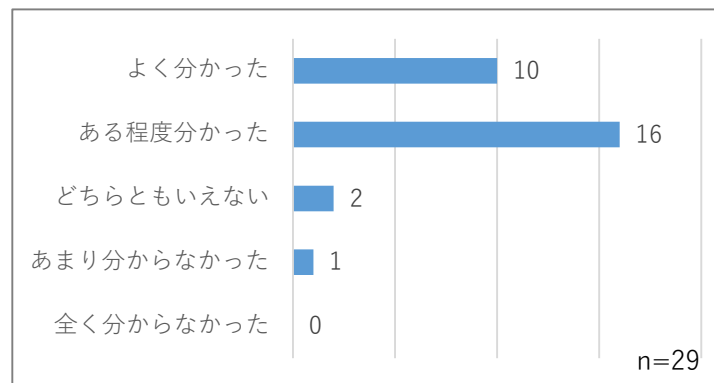
## 4 アンケート結果

### Q1 どこで本シンポジウムを知りましたか。



※その他・・・大学の案内 2件/2件

### Q2 現在、本市が行っている福山駅周辺の取組※について

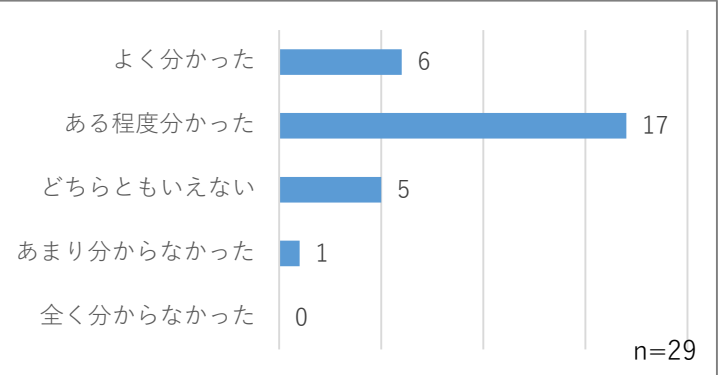


※福山市と備後圏域が持続的に発展していくために、その玄関口である福山駅前の再生に取り組んでいる。そして現在、駅周辺では「居心地が良く歩きたくなる」ような人中心の空間(ウォークアブルな空間)に変えていく取組を行っており、その取組の一環で駅前広場の検討を進めていること。

### (Q2) 初めて知ったことや興味を持ったこと、感じたことなど (自由記入)

- 言いつばなしで誰かに任せるのではなく、妄想して、自分でできること、イベントへの参加や取り組まれていることへの理解など、状況を良くできるような行動につなげたい。
- 他市の事例が参考になった。
- 取り組みについては理解できた。備後圏域との連携についてはよくわからなかった。
- 物理的空間だけでなく人的空間も含んだ、環境だけでなくその地域の人々の過ごし方も含めまちづくりをするという部分に興味を湧きました。
- なんばや姫路などの具体例を出し、福山がどのような駅前をめざすかを聞き、鮮明ではないがどのような街になるか見えそうな気がした。
- 働き世代、子育て世代が福山に求めているものがウォークアブルなのかは疑問が残りました。また、公共交通機関の縮小の不安や駐車場の問題などは簡単な問題ではないため、相当に時間がかかると感じました。多世代を巻き込んで福山駅前の再開発を推進するのであれば、ある程度の行政の介入は必要だと思います。
- 具体的に駅前広場を作っていく過程を教えていただけたら良かった。市民の声を実際に聴いて、使われるものをつくると言っていたが、実際に市民の声を聴く機会が少ないように感じた。
- 今の福山駅前の状況の中で、駐車場で虫食いになっていて、駐車場にアクセスするために車がどの道にも通っている。ということ。本当にその通りでイベント時にも歩行者天国にできず残念でなりません。特に伏見町。
- 今後の時間軸の中でのアクションプランづくりをこまかく時間設定しつつやっていくべきと思います。
- ウォークアブルにすること、駅前広場を考えることは賛成だが、そもそも福山市民が駅前に集まらない、集まりたいと考えているのか？その根本的な部分が理解されているか？ここが不明。アイデアを出すことも大事だと思うが、福山市民が駅前の駐車場に高いお金を出して来るのかどうかイメージできない。郊外からバスで来るにもバス代が高い。その辺の問題を理解されてのプロジェクトなのか？

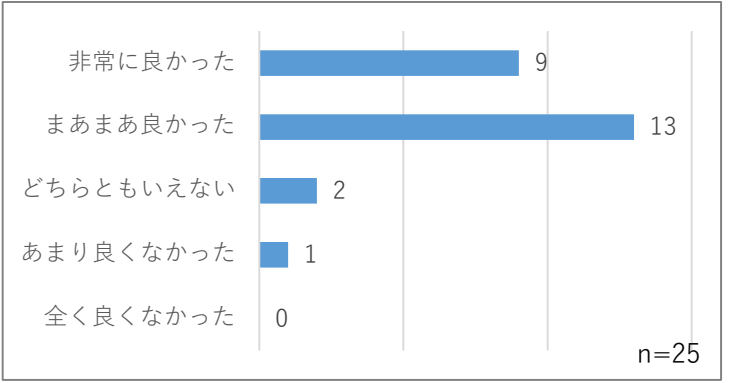
Q3 これからの公共空間（道路、広場、公園など）の使い方の方向性について



(Q3) 興味を持ったことや感じたこと、公共空間をどのように使いたいかなど（自由記入）

- ウォーカブルな空間としていくため、交通結節を重要視することが大切であると知ることができた。
- 人が駅周辺に集まる空間にしたいが、制約が多く難しいと思った。
- 歩く人に優しいまちにしていく、また民間がプランニングし、それを行政と役割分担していくということで、面白い空間がたくさん生まれると福山の魅力はより上がっていくと感じた。
- 陳腐な考えかもしれないが、「陽の入る地下街」のアイデアが浮かんだ。夏は暑く歩くのが億劫な駅前を日光が入る清々しい大規模な地下街にすることでウォーカブルな駅前になるのではないかと思った。
- 魅力的な店舗やカフェなど人が立ち寄る機能は必須だと思いますが、それらのすぐ近くや歩いて移動する合間合間に芝生広場やベンチなど、休憩できるスペースがあることで、人が留まり新たな交流が生まれるように感じました。
- 多世代が駅前広場を訪れるように、偏りのない場になれば良いと思います。
- 駅前広場をつくることは非常に賛成だが、その中に子どもの遊ぶことができる水辺空間をつくることも楽しそうだと感じた。私は大学祭の実行委員会で、新しい企画をつくった経験があり、妄想でも良いのでアイデアを出すことの大切さに共感した。
- 「既にあるものを活かす」、「ポテンシャル」というキーワードがまず心に留まりました。伏見町を隅々まで歩き観察して、私なりの視点で勝手にポテンシャル探しをしてまとめてみようと思います。「魅力的な目的地とその途中の偶然の出会い」というお話からは、伏見町の古いものや細い路地が活用できたら良いのではと考えました。歩く楽しみは発見にあると思います。狭い所、あやしい所の活用はどうでしょう。伏見町のお稲荷さんは、行政の管轄ではないと思いますが、パワースポットになるかもしれません。

Q4 駅前広場の検討にあたっては、議論の内容を積極的に発信するとともに、今回のようなシンポジウムなどでみなさまのご意見をしっかり聴き取りながら検討していきたいと考えています。この度のパネルディスカッションでの意見や質問の聴き方についてどう感じましたか？



(Q4) ご意見やご提案など (自由記入)

- いいねが多い順番に答えるのも素晴らしいと感じたが、順番に答えていく方法でも良いのではないかと感じた。いいねが少ないものでも、興味のある質問が多かったため。
- 質問に対するパネラーの回答の後、その内容についてもう少し深めてもいいのではないか。
- 議論は必要だが、(大変ではあるが)いつ施工するのか、スケジュールの予定が必要かと。
- slidoで気軽に意見を言えたからか、たくさんの意見が出てよかったと思う。今後も定期的開催したら良いと思う。
- すべての質問にその場で対応できないのは仕方ないことだけど、何か質問に対する回答が分かるような対策を考える必要があると感じた。
- もっと多くの市民の声を聴くことができるイベントがあれば、よりの確なニーズに対応するサービスを提供できるなど感じた。
- 私は自分の考えをまとめるのに時間がかかったり、大勢の集まりで発言するのが苦手です。色んなアイデアや表現方法を持っておられる方もおられるでしょう。駅前広場の予想図の絵のように、様々な手段でアイデアを募ったり、まとまらなくてもよかったり、小さなことについてでもよかったり…幅広い人達の意見を集められる工夫はないものかと思案中です。私は難しいことは言えませんが、「通りに名前が付いていたらいいなあ」とか「公園にみんなで可愛がれる動物がいて欲しいなあ」「通りにテーマカラーやお店に個性豊かな暖簾か旗が飾ってあるのもいいかも」など小さなことしか浮かびません。でも、考えると楽しいです。妄想って楽しいですよ。
- つまみ食いではなく、もう少しテーマ毎にまとまりのある聴き方が分かりやすいと思った。
- 今回のような方式で良いと思います。よりディテールの議論については別の方法で改めて行うべきと思います。

## Q5 本シンポジウムに参加して、印象に残ったことや感じたことは何ですか。（自由記入）

- 行政側の担当者が講演する時間を増やした方が良いのではと思った。
- 福山市がふるさとである一市民として、これからもっと誇れる、愛される福山市としていくため、協力しながら議論をすすめてより良いものにしていきたいと感じた。
- 民間主導で使われる場所となるプランを考える進め方が新しい官民連携の仕方だというのがとても印象に残った。
- 駅前の改善策として他の都市などを参考に、様々な活動をしていて、とても参考になった。新しく案を作るのではなく、まずは他都市から学ぶという視点も大事だとわかった。
- 使う側の目線が大事ということで市民との意見交換が可能であるシンポジウムという機会を積極的に導入していくべきだと感じた。
- 自分以外の人の質問がためになった。
- 地元の人がどうアクティビティしていくかは重要だと思いますが、福山市の都市規模や市民感覚、風土、問題点等に沿った検討がされれば良いと思います。
- これからもこういったイベントに積極的に参加して、自分の知らないことやもっと興味のある分野の知識を身につけたい。本日はこのような機会を設けてくださり、誠にありがとうございました。
- 人生の諸先輩方に福山は「ばらのまちと言うか・城下町じゃで！」というお言葉を頂き、ばらにも福山城にもどちらにも心を寄せた「まちづくり」を意識することで多世代がつながれるのかもと考えています。そして市章は蝙蝠山…色んなテーマがあると混乱しそうかもしれませんが、どれも福山の歴史の中で地域の人たちの心の支えでありシンボルであったもの。他の街の事例を参考にしつつ、福山でしかできない駅前広場を実現できたらと妄想しています。
- ビジョンの段階から誰がどうやるか、どういう優先順位・手順でやるか、具体的に進める段階へジャンプすることが大切だと思いました。
- このような形の住民参加をたくさんやっていくべきと思います。
- 市民との対話をしながら、行政・市が決定して税金を有効に使って欲しいです。福山人の考え方も併せていただけるとうれしいです。参加して良かったです。ありがとうございました。住みよい町にしてほしいです。
- 福山駅前の理想論はもう必要なく、現実的にどう人を集めるか？インフラを含めて考える時だと思う。福山市民が駅前に興味があるかを含めて。高い駐車場代、高いバス代を払っても集まるのか？エリアの価値を高めて地代が上がって、テナントに入る事業者がどれだけいるのでしょうか？

## 5 今後について

本シンポジウムなどにおける市民のみなさまからのご意見やご質問については、今後の福山駅前デザイン会議や（仮称）福山駅前広場整備推進協議会の議論の参考として取扱います。

今後も引き続き、福山駅前広場デザインシンポジウムのような場を設けることによって、駅前広場の議論の経過を発信するとともに、多くの方々の意見を聴きとりながら、市民のみなさまが誇りに思えるような駅前広場を市民のみなさまと一緒に作り上げていきます。